

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 4 月 6 日 (2006.4.6)

【公開番号】特開 2000-240767 (P2000-240767A)
 【公開日】平成 12 年 9 月 5 日 (2000.9.5)
 【出願番号】特願 平 11-41166
 【国際特許分類】

F 1 6 H 55/36 (2006.01)

F 1 6 D 41/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 55/36 Z

F 1 6 D 41/06 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 2 月 14 日 (2006.2.14)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 6】

又、上記一方向クラッチ 2 1 は、上記従動プーリ 7 b がスリーブ 8 a に対して所定方向に回転する傾向となる場合にのみ、従動プーリ 7 b とスリーブ 8 a との間での回転力の伝達を自在とする。この様な一方向クラッチ 2 1 を構成する為に本例の場合には、上記従動プーリ 7 b 及びスリーブ 8 a を軸受鋼等の硬質金属により造ると共に、これら従動プーリ 7 b の中間部内周面及びスリーブ 8 a の中間部外周面を、それぞれ円筒面としている。そして、これら両周面同士の間、それぞれがロック部材である、断面形状が非円形である複数のスプラグ 2 7 を、クラッチ用保持器 2 8 により保持した状態で設けている。本例の場合、このクラッチ用保持器 2 8 の軸方向両端部は、上記各サポート軸受 1 0 a、1 0 a を構成する内輪 2 5、2 5 の端面に当接若しくは近接させて、軸方向に互るずれ止めを図っている。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 7】

上述の様な一方向クラッチ 2 1 を構成する複数のスプラグ 2 7 には、弾性リング 2 9 等の弾性材により、上記スリーブ 8 a の外周面と上記従動プーリ 7 b の内周面とに押し付ける方向の弾性を付与している。上記各スプラグ 2 7 は、上記スリーブ 8 a と上記従動プーリ 7 b とが所定方向に相対回転する場合には、これらスリーブ 8 a の外周面と従動プーリ 7 b の内周面との間で突っ張り、これらスリーブ 8 a と従動プーリ 7 b との間で回転力の伝達を行なわせる。これに対して、上記スリーブ 8 a と上記従動プーリ 7 b とが逆方向に相対回転する場合に上記各スプラグ 2 7 は、これらスリーブ 8 a の外周面と従動プーリ 7 b の内周面とに対して滑り、これらスリーブ 8 a と従動プーリ 7 b との間で回転力の伝達を行なわせる。尚、この様なスプラグ型の一方向クラッチ 2 1 の構造及び作用は、従来から周知であるので、詳しい説明は省略する。又、上記各スプラグ 2 7 の形状は、伝達すべきトルクの大きさ等に応じて各種の形状を採用できる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

上述の様に構成する本例のオルタネータ用一方向クラッチ内蔵型プーリ装置は、前記各凹溝9、9にそれぞれ係合する、無端ベルトの内周面に形成したリブ1本当たりの単位長さ毎の牽力が100[kgf/m]を越え、且つ駆動用エンジンの回転速度の変動率が、アイドリング時で20%程度になる用途に使用する。この様な用途に上記オルタネータ用一方向クラッチ内蔵型プーリ装置を組み込んでオルタネータを回転駆動すると、上記一方向クラッチ21の働きにより、無端ベルトを掛け渡した前記従動プーリ7bの回転速度が、オルタネータの回転軸3に固定したスリーブ8aの回転速度以上の場合にのみ、上記従動プーリ7bからこの回転軸3にトルクを伝達する。